



町田市版事業仕分けに傍聴参加しました

岩上 誠次

町田市では5月21日(土)に、3年ぶりとなる第2回事業仕分けを実施しました。今回の仕分け対象は、11施設。保育園、ひなた村、健康福祉会館、玉川学園子どもクラブ、学童保育クラブ、まちだ中央公民館、ふれあい桜館、堺市民センター、リス園、市立総合体育館、市立学校温水プールが対象になりました。仕分け会場は、町田市文化交流センター。第1会場、第2会場にわかれ、各施設1時間ずつの実施。私はそのなかでまちだ中央公民館の仕分けに傍聴参加してきましたので、その概要について報告します。



町田市版事業仕分け 会場風景

仕分け人は5人。学識経験者3人、市民2人。座長は学識経験者の宮入小夜子氏(株式会社スコラ・

コンサルト取締役、日本橋学館大学リベラルアーツ学部教授)でした。傍聴参加者は、23人(男11人、女12人)。60歳以上が約半分を占めていました。

まず、熊田公民館長から施設の概要説明があり、つづいて仕分け人との質疑応答がありました。市の担当者による概要説明から抜粋すると、利用者の特徴としては高齢者の利用が多く、趣味のサークルが多いということが挙げられていました。今後の方向性としては①生涯学習センターを設置する、②講座等事業内容としては、公民館事業、市民大学事業、さがまちコンソーシアム事業を実施する、③生涯学習センター運営協議会を設置し、市民ニーズ事業に反映させる、④現在、年間32日の休館日を年間18日に減らす(8月から毎月第2・4月曜日の休館日は、第4月曜日のみとする)。以上のことが市側より説明されました。

質疑応答のなかで明らかになったのは、つぎの点です。現在の利用者の状況については登録団体1000団体を優先し、抽選によっていること。公民館運営審議会(委員15人、うち11人が応募市民)で出された意見は誰にたいして提出されているのか、つまり市長なのか館長なのかについては、館長の諮問機関なので館長であること。防災にかんして非常階段の数や商業施設との連携については、公民館の消防計画があり、非常階段は4か所、商業施設とは連携をはかっていたいということ。若者が使えない理由として公民館という名称が若者にうけないのではないかと、名称変更を考えないのかという指摘にたいしては、現名称は、2002年の一般公募で決められ、中高年者にはこの名称のほうがイメージしやすい。例えば〇〇センターなどの名称では、他の施設と混同しやすいのではないかと。若者への利用促進の働きかけが必要ではとの問いかけには、働いている方々のニーズ調査も考えてみたいとのことでした。

仕分け人が仕分け結果について帳票記載している間、来場者にもリモコンで同様の内容の回答を求められました。評価区分は6項目。①廃止、②抜本見直し、③サービス・予算とも縮小、④サービス維持・拡大で予算縮小、⑤サービス・予算ともに拡大・充実、⑥現状維持。仕分け人の最終結果は、④のサービス維持・拡大で予算縮小でした。来場者の意見は⑤が最も多くなりました。他の施設など詳細結果については、町田市ホームページに掲載されています。

94号目次

町田市版事業仕分けに傍聴参加しました	岩上 誠次 1
町田の秘境 相原町そぞろ歩き(1)	湯浅 起夫 2
3.11をきっかけに日本のマスメディアを考える	井上 弘貴 6
事務局だより・編集後記	8

町田の秘境 相原町そぞろ歩き(第1回)

湯浅 起夫

前回の三輪町は、町田市東端に位置するのに対し、相原町は町田市西端に位置しています。東西に約7キロメートル、南北には一番広い地帯で2キロメートル、狭いところでは約500メートルで、ちょうど帯のように東西に細く、八王子市と相模原市の間を割って突出しているように見えます。東端で小山町と接し、常盤町・下小山田町に続きます。北側と西側は八王子市と境を接し、南は境川をはさんで相模原市と接しています。境川は、ここ相原町に源を発し、はるか54キロメートルを流れて相模湾へ注いでいます。

ふるさとの川よ ふるさとの川よ
よいおとをたてて ながれるだろう
母上のしろい足を ひたすこともあるだろう
八木重吉

★都立大戸緑地＝大地沢

JR 相原駅前から大戸行バスに乗って大地沢青少年センター入り口で降ります。ここから町田の秘境・大地沢の地に大戸緑地が広がります。ここは町田市の最西端部に位置します。この大地沢の森林は、江戸時代の昔から入会秣場で、牛馬の飼料の秣の採草地として、また、桑畑として、またあるときは薪炭林として村人に利用されてきました。平成2年3月、この大地沢全山が保健保安林として国の指定を受け、それから大地沢の森林は市民の健康と憩いの場として利用されていくことになりました。



★雨降地蔵

大地沢青少年センター入り口バス停前に可愛らしい地蔵菩薩が2体鎮座しています。嘉永3年(1850年)に安置され、古くから子宝に恵まれない人たちの熱心な参詣があり、その甲斐あって子供を授かった話が数多くあり、子育て地蔵として伝えられています。また、疫病が流行し、山里離れた所で医者にもかかれず、お百度詣りをして治してもらった話も伝えられ、また、イボ取地蔵尊とも呼ばれ、多くの人に親しまれています。

★大地沢小仏屠

バス停から西へ大地沢の緑地へ入ります。右手に境川のせせらぎの音を聞き、左手は丘陵が迫っている大地沢林道を歩いて行きます。ここは昔、大きなおろちが住んでいて、土地の人はおろち沢と言っていたのがい

つしかなまって、大地沢と呼ばれるようになったという言い伝えがあります。

やがて左手の丘陵の崖面がむきだしになって、そこにバームクーヘンのように地層が重なっているところが出ます。砂岩や粘土が斜めに積み重なっているのが特徴で、大地沢小仏層と言われる地層です。説明板によると町田市内で一番古い地層で、今からおよそ1億3500万年前から7000万年ほど前の中世代白亜紀（恐竜時代）の頃、海底であったと考えられ、少しずつ地層が堆積し、その後幾度となく発生した大規模な地殻変動によって隆起してきたと考えられます。小仏層の名の由来は、明治の森と呼ばれる高尾山の西側に位置していて、この地層が多く見られる小仏峠からとったものだそうです。泥岩や砂岩から変化したと考えられる粘板岩、千枚岩、硬砂岩などから出来ています。



★大地沢青少年センター

小仏層を過ぎて100メートルほど行くと駐車場があって、ここから歩行者専用道路になります。右手下方に木道がありきれいに手入れされた田圃に水仙が見えます。やがてミニアスレチック場やキャンプファイア場が続き、大地沢青少年センター本館に出ます。ここは130人が宿泊できる宿泊棟や研修棟があり、その先の左側斜面にキャビンが並び、右側に野外炊飯場があって、ハイキングが楽しめ、市民のオアシスとして利用されています。

豊かな自然の中で野外活動が出来る青少年施設で、町田市内唯一の公共宿泊施設です。名称は青少年センターですが、大人だけでも利用できます。

★境川源流地・草戸山

青少年センターを過ぎて300メートルほど歩くと、道が分かれていて、そこに道標があり、右は草戸山へ、まっすぐ境川源流とあります。草戸山は町田市と八王子市と相模原市の境界に位置する山で、町田市の最高峰の山です。標高365メートルあることから別名で一年山と言われています。今回は草戸山へは登らず、ひたすら境川の源流を目指します。といっても道標から源流までは200メートルほどで、意気込むほどではないのですが…。

境川の名については「新編武蔵風土記稿」に「武相の境界となれる川なれば、直ちにその名とせり」とあるところから、古くから境川と呼ばれていたようです。流れは多摩丘陵と相模大地を区分する断層上にあり、町田市と神奈川県の間を流れ、大和市、横浜市の間を沿い、藤沢市の遊行寺の前を経て川名二丁目の新川名橋付近で柏尾川と合流し、片瀬江の島海岸（相模湾）に注ぎます。

境川の源流付近は倒木におおわれて、以前は源流表示の看板があったのですが、今は何もなく放置されているようです。町田に二つある源流で、鶴見川の源流はきれいに保存されているのに対し、寂しい気がします。青少年センターの事務所では近々説明板を立てますとのこと。



★大戸観音・大戸観音堂鐘楼

青少年センター前バス停から東へ300メートルほど行くと、観音堂があります。観音堂が創立された慶長元年（1596年）当時から、大戸の観音様と呼ばれ、鐘楼が八王子八景のひとつになり大戸の晩鐘と、古くから大戸と呼ばれている地名です。臨済宗で八王子市山田廣園寺末。本尊は石像で付近の田圃より出土したといひます。大戸観音堂鐘楼は、山門と合作の鐘楼門で九尺四面の総檜造りです。階下が門、階上が鐘楼で、梵鐘は戦時中供出されましたが、昭和43年に新鑄され、鐘名と、

夕かすみ 立つや大戸の 鐘の音に

妻木を負ふて 帰る里人

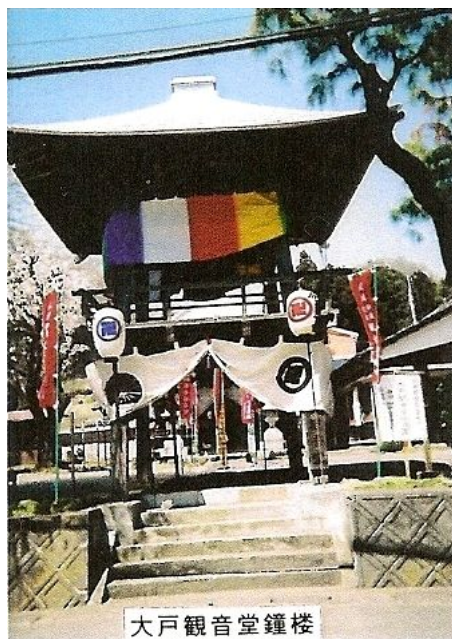
の八王子八景の短歌を刻んでいます。大戸は、かつて横山荘に属していたので、今は町田にあるのですが八王子八景の景勝地として歌にも詠まれています。

坂東三十三ヶ所の札所で陰戸観音とも呼ばれ、御詠歌に「野も過ぎ山路に向かう大戸堂何時も絶えせぬ願ひなりけり」は、昔より広く知られていて、八王子八景のうち大戸の晩鐘と呼ばれています。堂内には町田市銘木百選の大銀杏の木があります。

大戸観音堂からすぐ町田街道に出ます。現在の町田街道は、古くは鶴間から町田市街を経て、大戸を通り秩父・高崎方面に向かう「鎌倉街道山之道」と言われていました。その要地は大戸に位置しており、戦国時代の元龜年間（1570～1572年）に八王子城主であった北条氏照の領地になり、城の第一の木戸がここにあったと言われています。この大木戸番所を称して、いつしか大戸と呼ばれるようになったと言われています。

★八木重吉

町田街道を東に行くと、八木重吉の生家があります。八木重吉は、すぐれた詩人として有名です。石川啄木や宮沢賢治のように八木重吉も、これからという惜しい若さで世を去った天才詩人でした。明治31年2月、相原町大戸に生まれ、内村鑑三の著書に影響を受け、熱烈なキリスト教の信仰者でした。大正15年に発病。昭和2年10月26日30歳の若さで永眠されました。重吉の



詩を高村光太郎さんはつぎのように述べています。「詩人八木重吉の詩は不朽である。このきよい、心のしたたかりのような詩は、いかなる世代の中にあっても死なない。詩の技法がいかように変化する時が来ても生きて読む人の心をうつに違いない。それほどこれらの誠は詩人の心のいちばん奥の、ほんとの中核のものだけを捉えられ、述べられているのである」。

八木重吉の詩碑は昭和 32 年、彼の没後 30 年を記念して、その生家の前に建てられました。碑には重吉の代表作「素朴な琴」が掘られています。

この明るさのなかへ ひとつの素朴な琴をおけば
秋の美しさに耐えかねて 琴はずかに鳴りいだすだらう

生家のある八木重吉記念館の見学は往復はがきで予約が必要です。



八木重吉銅像

相原町 4473 八木藤雄様

★八雲神社・市指定無形民俗文化財 大戸ばやし

大戸の天主様と言います。土が谷の天王社と五反田の天王社を合祀して、社名を八雲神社としました。祭神は建速素盞鳴男命で、例祭日は八月の第一日曜日。毎年祭礼に奉納される大戸ばやしは、町田市の無形民俗文化財で、神輿の町内巡行の渡御を行いません。曲目には「昇殿」、「子守唄」、「車切」、「鎌倉」などがあります。

★国際電気通信（株）多摩送信所・法政大学多摩キャンパス

第二次世界大戦が熾烈を極め、本土空襲が必至となってきた昭和 19 年 5 月頃、大本営では陸海軍の通信を安全にするため、防空送信所の建設を計画しました。そしてその建設を相原町字土が谷、湯之入、武蔵岡、鍛冶谷、滝之谷及び横山村寺田の一部にま

たがり建設することに決定しました。土地を買収したのは昭和 19 年 7 月、工事に着工したのは 8 月で、完成したのは昭和 20 年 4 月でした。

対独向送信は、昭和 20 年にドイツが連合軍側に降伏したので使用せず、陸海軍用は南方総軍ジャカルタ等と通信を開始しました。対外宣伝用は昭和 20 年 5 月より使用を開始。それから 3 ヶ月、昭和 20 年 8 月 15 日に終戦となり、これら一切の海外放送は終了しました。

陸海軍用放送の成果については不明ですが、海外放送は終戦直前に活躍し、なかでも昭和 20 年 8 月 10 日、ポツダム宣言受諾の意思を日本が表明したのはこの送信所からでした。この防空送信所はその使命を終了したことにより、昭和 21 年 11 月に閉鎖されました。現在、跡地には法政大学多摩キャンパスが建てられ、若い学生たちの教育の場となっています。（続く）

3.11 をきっかけに日本のマスメディアを考える

会員 井上 弘貴

前号の『まちづくりの環』第 93 号の巻頭において、4 月 26 日に町田市民フォーラムのホールでおこなわれた映画監督の鎌仲ひとみ氏らをパネリストとするシンポジウム「いま、福島原発で何がおきているのか？」の様態を本紙は伝えた。当日はホールの定員をはるかに上回る市民が参加し、ホールの外でもプロジェクターを使って内部の様態を同時中継していたが、このシンポジウムは現在でも Ustream (ユーストリーム) という動画を共有することのできるインターネットのサイトで再生し、誰でもいつでも視聴することができる(ご覧になっていない方は <http://www.ustream.tv/channel/uran-cannel> にぜひアクセスください)。このユーストリームは 2007 年にアメリカで始められたインターネットビジネスで、日本において株式会社ニワンゴが提供しているニコニコ生放送といったサービスと同様に、これによって一般ユーザーからビジネスユーザーに至るまで幅広い人びとが、自分の撮影している動画をひろくインターネット上で同時中継することができるようになった。これらのサービスの特徴は繰り返すなら、You Tube などのように単に自分が撮影した動画をインターネット上で公開するだけではなく、今まさに撮影中のものをリアルタイムで配信することができる点にある。

このサービスを応用したネットビジネスにはさまざまなものが出現しつつあるが、単にビジネスだけでなく、それは映像ジャーナリズムのあり方にも新しい動きを創りつつある。ユーストリームを使って、日本で独自の報道活動をおこなっている人物にたとえば岩上安身(いわかみ やすみ)というフリージャーナリストがいる。岩上氏は、Independent Web Journal(インディペンデント・ウェブ・ジャーナル)、通称 IWJ というインターネットのサイト(<http://iwakamiyasumi.com/>)を主宰し、趣旨に共鳴しているフリーのジャーナリストたちやボランティアとともに、主流の大手メディアがタブー視するテーマを報道し、また、人物にインタビューをおこない、その記録をウェブ上で公開し、状況に応じてリアルタイムで中継をおこなっている。活動の資金は、呼びかけに応じて集められた寄付によって現在のところ成り立っている。

岩上氏のその歯に衣着せぬ追及の姿勢にたいしては毀誉褒貶あい半ばするところがあるが、かれ個人にたいする評価がどのようなものであれ、3.11 の震災以降、とくに福島第一原発をめぐる東京電力や政府の対応にかんして、その記者会見の様態を不眠不休でネット上に動画配信し続けた、そして現在でもし続けている IWJ の活動の徹底さにたいしては、頭が下がると言わざるを得ない。

さて、この IWJ は 3.11 以降、東京電力や原子力保安院の記者会見の様態をなんら加工することなく、インターネットを経由してそのままネットの視聴者に配信してきたが、はからずもその一連の配信を通じて、これまでめったなことでは目撃することのできなかった大手メディアのさまざまな姿をわたしたちは垣間見ることができるようになった。

たとえば、2011 年 4 月 4 日深夜(5 日午前)の、放射能汚染水を海中投棄する決定を東京電力が記者会見した際をひとつ挙げるることができる。この海中投棄については、原子炉等規制法(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律)第 64 条〔原子力事業者が災害発生時に緊急措置を講じることを認める条文〕の適用について、その妥当性と決定をくだした責任者の名前を、深夜の記者会見に出席したフリージャーナリストたちが激しく追及し、その追及をかわす東京電力の広報担当社員とのやりとりは、きわめて緊迫したものとなった。その様態は IWJ によってネ

ット配信され、その中継は深夜にもかかわらず万単位の視聴者数を獲得した。

以下の画像は、そのIWJの配信のひとコマである。注目すべきなのは、ご覧いただけると思うが、起立してやりとりしている東電社員たちとフリージャーナリストの手前で、頬杖をつき、あるいはうつむいてタイプの手を動かさずにじっと黙っている大手マスコミの記者たちの姿である。いわゆる記者クラブに属するかれら記者たちは、クラブに属することのできない(正確にはそこから排除している)フリージャーナリストたちを露骨に差別し、かれらの追究することは一切記事にしないということは、これまでも噂として知る人ぞ知るところではあった。しかしその模様をわ



たしたち一般人がじかに目撃することはこれまでほぼなかった。それが、ユーストリームとIWJというふたつの新しいネットの動きを経由して、そして3.11という未曾有の事態をきっかけとして、はからずもわたしたちは大手マスコミの閉鎖的で情報をいかようにもコントロールできる、また実

際にコントロールしている実態について知ることができるようになった。「まさかこれほどとは」。原発災害をきっかけとして、日本における実質的な「情報統制」としか言いようのないメディアの現状について目まいを覚えたひとは少なくないかもしれない——大手メディアにおいても、5月27日のフジテレビの番組「ニュースJAPAN」において福島の子どもたちの被爆被害を伝えるVTRの途中で突然ブラックアウトし、その後何事もなかったかのようにCMに移行するという謎の「放送事故」が生じている。

東京電力の勝俣恒久会長の2011年3月30日の記者会見においても、フリージャーナリストの田中龍作氏が、地震発生時、会長がマスコミ幹部OBを連れて中国旅行に出かけていたことを質問し、勝俣会長自身がそのことを認めたにもかかわらず(この模様もIWJはネット配信している)、翌日の大手紙の記者会見にかんする記事はそのやりとりをまったく掲載しなかった。このような質問があったことを、新聞とテレビを主たる情報源としている人びとは残念なことに気づくことができないのである。田中氏は、自身のブログでこう述べている。「経済部系の記者に対する企業のもてなしは並々ならぬものがある。飲み食いばかりではない。景気のいい頃にはワイシャツの仕立て券はじめ数々のギフトが届いた。政治部記者が有力政治家から海外旅行に連れて行ってもらうのも同様だ。記者クラブメディアの記者は「たかり根性」が当たり前のものとして沁み付いているのである」(<http://tanakaryusaku.seesaa.net/index-3.html> より転載)。大手マスコミと電力会社との穏やかならぬ関係について、わたしたち市民はようやくおぼろげに気付き始めたにすぎない。震災や原発災害は、日本社会のさまざまなひずみやほころびを白日のもとにさらしつつあるが、日本社会においてマスメディアが果たしてきた闇について、わたしたちはようやくその輪郭をつかみ始めたのかもしれない。そのような折、何故国会においてインターネットを規制する法案が拙速に審議され、可決されつつあるのだろうか。

事務局だより

町田まちづくり市民会議 HP

<http://www.machida-machizukuri.com/>

町田まちづくり市民会議ツイッター

http://twitter.com/machida_citizen

次回定例会・会報発行日のお知らせ

・7月の定例会は7月14日(木曜日)13:00～より中央公民館ロビーでおこないます。

講読賛助会員になっていただけませんか

前号の願いを再掲いたします。3月の総会において町田まちづくり市民会議の会則・細則が改正され、『まちづくりの環』の発行をサポートくださる方々として講読賛助会員という資格を新たに設けました。正会員として日々の活動にかかわることにためらいをお感じになられましても、本紙発行の趣旨にご賛同くださり、毎月定期的に購読いただくかたちでご支援を頂戴できましたら、たいへんありがたく思います。講読賛助会員の会費は、年1,000円。会報を毎月お届けいたします(会計担当：柿原)。

口座：「ゆうちょ銀行」 10160-67915431

名義：町田まちづくり市民会議

緑のカーテン・プロジェクトに高い関心

5月25日付の朝日新聞夕刊でも報道されたように、「緑のカーテン・プロジェクト・2011」(小林美知代表)が町田市環境資源部(環境総務課・ごみ減量課)と都市づくり部(公園緑地課)との共催で24日に下小山田の大賀菫絲館に隣接する駐車場でおこないましたゴーヤとあさがおの苗を配布は、きわめて多数の希望者が殺到し、開始からわずか1時間あまりで1000世帯分(3,000本)の苗が品切れによる終了になるというたいへんな反響でした。「緑のカーテン・プロジェクト・2011」では市と協議のうえ配布の第二弾を検討しているとのことでした。

6月議会がはじまります

平成23年(2011年)第2回町田市議会定例会

は、6月8日(水曜日)より始まります。議員各位の一般質問は、13～16日におこなわれる予定です。

編集後記

今号では巻頭にて当市民会議の岩上副議長による町田市版事業仕分けの傍聴記を掲載しました。また、湯浅前編集長の好評連載である町田市内そぞろ歩きシリーズは、三輪町を終え相原町に入りました。今号では一挙4ページの掲載です。以前にもこの編集後記にて記したことですが、町田市域に眠る歴史の厚みには本当に驚かされます。

中央公民館や市民フォーラムなどの公式の利用記録のなかで若者の利用は浮かびあがってこないかもしれませんが、実際には両施設のフリースペースでは、日中多くの高校生(あるいは浪人生も?)が、定期試験や受験のための勉強をしているのを見かけることができます。おそらく職員の方々はその光景を見ているはずですが、公式の報告を作成する際には忘れられてしまうのでしょうか、市が想定している正しい利用ではないとして、若者のこのような利用の仕方の是非は別として、久繁哲之介氏の『地域再生の罫』(ちくま新書、2010年)でも指摘されているように、現場の情報を集約することの難しさを垣間見る瞬間です(H.I.)。

まちづくりの環

町田まちづくり市民会議会報
2011年6月7日第94号発行
発行者 佐藤東洋士
編集責任者 井上弘貴
事務局 常盤町桜美林大学内
TEL 042-797-6947
E-mail hiro_inouye@yahoo.co.jp